

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ＜理念＞ 1)「法人理念」／自分を愛する様に隣人を愛せよ。分かっている様で難しい。絶えず自分に問いかけられる課題。 2)「すべては利用者の為・諦めない面々」／きね川福祉作業所は課題を抱えながらも就労に関与したい利用者の最後の砦といった意識で利用者を受け入れ、日々工夫して支援する。壁に当たっても苦労があっても懲りずに支援する。 3)「見えないものを見る・聞こえない声を聴く」／利用者の表現は個人差が多く表現されている物が必ずしも本人の思いと一緒かと言うとそうでもない。コミュニケーションが不得手な利用者に寄り添う場合本人の様子や、目線、数少ない単語、言い方、前後関係等視野を広くして、尚且ついくつも想定しながら対応する必要があります。 4)「人と貢献」／得意があったら貢献。不得手があったら助けをもらう。不得手は時間を掛けて改善すれば良い。その分得意な事柄で貢献し協力し合う事で必要以上の多くの時間は掛からなくなる。自分と周り。そして何をするのかを重視し、誰かについてはその次に考える。誰がやっても良い意識は活性化につながる。 5)「風」／何でも話せる。何でも聞ける。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1)職員に求めている人材像や役割 自然／職員が支援する立場でいてもその場では自然な関係。特に指導する立ち位置ではない助言者の立ち位置。プロの黒子や後見の様であって欲しい。職員の存在は精神的支え程度が望ましい。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 「感じる」／利用者の様子を見て「今日はいつもと違」。そう感じる敏感さ。これは簡単の様でとても難しい。日々毎日対応しているからこそ感じる微妙な変化がわかる様になる。ある事例ではあるが、時限爆弾の処理をする専門家でも最後は「感」プロの「感」はすごい。職員も同じ様に「感」を磨いてほしい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル①	「日々の利用者支援に関する職員の振り返り」を施設目標に掲げ虐待防止に取り組んでいる	
内容①	虐待については「支援の質の低下の延長線上にある」と考えており、日々の利用者支援に関する職員の振り返りを施設目標に掲げ実施している。虐待防止委員会を設置して「利用者の気持ちに寄り添える支援」に向けて取り組んでいる。委員会構成メンバーとして事業所職員、他法人理事及び葛飾区社会福祉協議会にも入ってもらい設立している。今後、近隣の保育所、家族会にも委員会参加を依頼しより多角的な視点での検証作業をできるよう検討している。また定期的に虐待防止の職員自己チェックの実施や法人内の虐待防止研修や人権研修への参加を行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	水害・地震に関する実践的な防災マニュアルとBCPを作成し、災害時に備えている	
内容②	事業所が設置されている地域では水害リスクが高く、区のハザードマップでは3～5メートルの洪水が想定されているため、あらかじめ「洪水対応マニュアル」を作成している。また、地震・火災に関するBCPや地区でのマニュアルも作成しており、「役職不在の災害本部の立ち上げと代行者の実践マニュアル」では、万が一の際に代行者が業務を行えるよう、大きな文字で初動対応手順を記載し、現場の写真を挿入して視覚的にもわかりやすい工夫が施されている。今後もマニュアル等の見直しを図るとしており、内容のさらなる充実も検討している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-5	利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている
タイトル③	地域の社会資源となるよう開かれた活動を継続し、近隣住民にPRしている	
内容③	事業所では、運営の重点項目の一つに「地域公益活動」を掲げ、近隣住民に地域の社会資源の一つとしての活用を促すため、広報誌の配布や施設開放行事の開催を継続的に行っている。今年度は、近隣の児童を対象とした「夏休み工作教室」を4年ぶりに再開したほか、施設開放行事である「GENKIまつり」はコロナ禍により規模を縮小しながらも、ふれあい動物園・ミニSL乗車会やミニ四駆大会といった企画を取り入れ、近隣施設や幼稚園の園児を招待する日を設けたり、家族の参加を再開するなど、感染拡大防止に配慮しつつ段階的な拡大を目指している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	年度初めに「事業課題と対応一覧」を作成し取り組むべき課題（運営面、実務業務・地域交流・社会貢献、事業所改善点等）を明確にしている
	内容	事業所では年度ごとに「事業課題と対応一覧」を作成しており、「事業骨子」「収支」「業務」「経営」「実務業務」「地域交流・社会貢献」「施設の弱み改善」の視点から事業所の抱える重要課題を施設長がまとめ、職員周知を行っている。また「前年度の反省・改善が必要な事柄」として、前年度の取り組みの振り返りから出た課題や第三者評価・外部機関のコンプライアンス調査などの結果を参考に新たな課題や改善点を集約して記載している。挙げられた課題に対しては「具体的な対応」として、現状や今後の予定を記載して取り組む内容を職員に示している。
2	タイトル	1・2階合同支援体制のもとで、個別状況に応じた丁寧なPDCAプロセスが実践され、全職員が参画する個別支援計画が策定されている。
	内容	アセスメント情報は直近のものを上にして個別ファイルに集約し、ケース記録や支援日誌を通して課題やニーズの共有化を図っている。定期的に利用者家族と面談して要望を聞き取り、支援計画に反映させると共に、日々、朝夕礼で支援情報を交換し、日常的なモニタリングを丁寧に行っている。支援計画の見直しの際は、担当者がまとめた計画原案を全職員参加のケース会議で検討し、利用者家族の同意を得て確定させており、1・2階合同支援体制のもとで、個別状況に応じた計画作成のプロセスに全職員が参画する仕組みが定着し、着実に実践されている。
3	タイトル	作業や余暇活動、自治会などの取り組みの継続・活性化を図り、利用者が楽しく通いながら自己発揮ができる場となるよう努めている
	内容	職員は、利用者が「明日も来たい」と感じられる事業所となるよう、日ごろの関わりで明るい雰囲気作りを心掛けている。作業では能力評価に加え「満点ランキング」で個々の意欲を喚起しているほか、活動の中に余暇の楽しみを持つことも大切にし、クラブ活動や忘新年会・「GENKI祭り」、一泊旅行といった企画に利用者の意見を聞き新しい取り組みの工夫している。事業所運営に繋がる自治会役員は、様々な活躍方法を開拓しながら参加や役割の幅を拡げたことで選挙への立候補者が増えており、利用者が楽しみとやりがいを感じる場として大切にしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	生活介護事業展開及び複数の混在する中長期課題に対しロードマップを作成し葛飾地区施設や法人との連携強化を図り取り組むことを期待する
	内容	事業計画にも明示している事業所の課題は、利用者の高齢化と利用率の減少、生産活動の減少と工賃減の予測、建物の老朽化など複数の混在していることである。令和7年度から生活介護と就労継続支援B型の多機能型事業を開始する方向で検討しており、令和5年度末より準備に入る予定である。現在、職員不足による課題に加え、今後の事業運営に大きな影響を及ぼす中長期課題への対応も差し迫った状況のため、生活介護事業展開及び複数の混在する中長期課題に対しロードマップを作成し、葛飾地区施設や法人との連携強化を図り取り組むことを期待する。
2	タイトル	キャリアパスや適材適所を明確にすることで、各職員の長期的な展望でどう成長していくか将来到着イメージづくりを期待する
	内容	事業所では目指したい職業人や1年後の到達イメージなど個人のキャリアビジョンを示す「キャリアデザインシート」を活用して職員育成を図っている。また「個別研修シート」では役職・施設長で話し合った育成方針を記載し、職員それぞれが研修計画を作成することにより、主体性を持って自己研鑽を行えるようにしている。しかし現状は各職員は長期的な展望でどう成長していくかイメージ作りができていない状況である。今後、キャリアパスや適材適所の明確化により、各職員が長期的な展望を持ち、キャリアや将来のゴールイメージを作ることを期待する。
3	タイトル	各種マニュアル類は常備されているが、日常的に使いやすくする工夫と今後の事業展開を見据えた見直しに早々に着手されることが期待される
	内容	BOPやリスク関連マニュアルの他、業務に関わるマニュアル類は各種作成されており、各フロアに常備されているが、問題があれば職員間の口頭でのやりとりや、朝夕礼での検討で解決が図られ、日常的な活用には至っていない。「常備するマニュアル」ではなく、ポイントを使いやすい大きさにまとめたり、携帯でも確認できるように改める等、より使いやすくする工夫が望まれる。又、生活介護ヘシフトする計画があり、早晚業務内容の抜本的な見直しが必要になることが予測され、高齢化に対応するマニュアル類の見直しに早々に取り組むことが期待される。